

「だいたい対応できている」をあわせると73.7%を占めている（表42）。

表42 病状悪化の兆候と対応、連絡方について

	全 体	内 科	外 科	精 神 科	混 合
充分に対応できている	218(14.0)	103(16.6)	58(12.1)	43(13.4)	8(8.8)
充分とはいえないがだいたい対応できている	927(59.7)	358(57.6)	304(63.3)	194(60.2)	56(61.5)
満足のいく対応ができない事が多い	234(15.1)	98(15.8)	78(16.3)	38(11.8)	15(16.5)
このような相談はなかった	121(7.8)	50(8.1)	27(5.6)	31(9.6)	7(7.7)
無 回 答	52(3.4)	12(1.9)	13(2.7)	16(5.0)	5(5.5)
TOTAL	1,552(100.0)	621(00.0)	480(100.0)	322(100.0)	91(100.0)

分散分析を行った結果、「混合」は、他の診療科と比べて「充分に対応できた」と答えている比率が高いという傾向が有意であるという結果が得られた。P<0.05。

6. 福祉サービスの利用について

「福祉サービスの利用について」は、どの診療科も「満足のいく対応ができない」と答えている比率が最も高く「全体」で42.8%を占めている。「精神科」は「充分とはいえないがだいたい対応できている」と答えている比率が31.4%と、他の診療科と比べて高い（表43）。

表43 福祉サービスの利用について

	全 体	内 科	外 科	精 神 科	混 合
充分に対応できている	36(2.3)	21(3.4)	8(1.7)	6(1.9)	1(1.1)
充分とはいえないがだいたい対応できている	391(25.2)	145(23.3)	112(23.3)	101(31.4)	25(27.5)
満足のいく対応ができない事が多い	665(42.8)	263(42.4)	236(49.2)	116(36.0)	35(38.5)
このような相談はなかった	410(26.4)	176(28.3)	115(24.0)	82(25.5)	27(29.7)
無 回 答	50(3.2)	16(2.6)	9(1.9)	17(5.3)	3(3.3)
TOTAL	1,552(100.0)	621(100.0)	480(100.0)	322(100.0)	91(100.0)

V 患者・家族からの相談で説明する職種

患者・家族から次のような相談を持ち込まれたとき、どのような形で説明するのがよいと思いますかという質問に、次の4つの回答肢の中から選んでもらった。「看護職が中心になって説明すべきである」「看護職と他の専門職がそれぞれの立場で説明すべきである」「他の専門職が中心になって説明すべきである」「その他（ ）」。

1. 服薬について

服薬についてはどの診療科も「医師、薬剤師、看護婦がそれぞれの立場で説明すべきである」と答えている比率が「全体」で64.4%と最も高い。

「精神科」は、「薬剤師が中心になって説明すべきである」と回答している比率が10.6%と、他の診療科と比べて低い（表44）。

表44 服薬について

	全 体	内 科	外 科	精 神 科	混 合
看護婦が中心になって患者が理解するまで説明すべきである	101(6.5)	42(6.8)	30(6.3)	23(7.1)	4(4.4)
医師、薬剤師、看護婦がそれぞれの立場で説明すべきである	999(64.4)	392(63.1)	289(60.2)	237(73.6)	56(61.5)
薬剤師が中心になって説明すべきである	374(24.1)	158(25.4)	149(31.0)	34(10.6)	26(28.6)
そ の 他()	62(4.0)	21(3.4)	11(2.3)	24(7.4)	—(—)
無 回 答	16(1.0)	8(1.3)	1(0.2)	4(1.2)	5(5.5)
TOTAL	1,552(100.0)	621(100.0)	480(100.0)	322(100.0)	91(100.0)

2. 検査内容、方法、時間などについて

「検査内容、方法、時間などについて」はどの診療科も「医師、検査技師、看護婦がそれぞれの立場で説明すべきである」と答えている比率が最も高く「全体」で76.4%を占めている（表45）。

表45 検査内容、方法、時間などについて

	全 体	内 科	外 科	精 神 科	混 合
看護婦が中心になって患者が理解するまで説明すべきである	206(13.3)	86(13.8)	66(13.8)	43(13.4)	8(8.8)
医師、検査技師、看護婦がそれぞれの立場で説明すべきである	1,185(76.4)	473(76.2)	361(75.2)	245(76.1)	76(83.5)
検査技師が中心になって説明すべきである	98(6.3)	43(6.9)	34(7.1)	17(5.3)	2(2.2)
そ の 他()	48(3.1)	16(2.5)	15(3.1)	12(3.7)	—(—)
無 回 答	15(1.0)	3(0.5)	4(0.8)	5(1.6)	5(5.5)
TOTAL	1,552(100.0)	621(100.0)	480(100.0)	322(100.0)	91(100.0)

3. 日常生活動作について

「日常生活動作について」は、どの診療科も「PT、OTと看護婦がそれぞれの立場で説明すべきである」と答えている比率が最も高く「全体」で68.6%を占めている。また「看護婦が中心になって患者が理解するまで説明すべきである」と答えている比率は、「精神科」が24.5%と最も高い（表46）。

表46 日常生活動作について

	全 体	内 科	外 科	精 神 科	混 合
看護婦が中心になって患者が理解するまで説明すべきである	290(18.7)	116(18.7)	78(16.3)	79(24.5)	12(13.2)
P.T.、O.Tと看護婦がそれぞれの立場で説明すべきである	1,064(68.6)	433(69.7)	339(70.6)	207(64.3)	62(68.1)
P.T.、O.Tが中心になって説明すべきである	128(8.2)	50(8.1)	47(9.8)	19(5.9)	8(8.8)
そ の 他()	43(2.8)	14(2.3)	11(2.3)	11(3.4)	2(2.2)
無 回 答	27(1.7)	8(1.3)	5(1.0)	6(1.9)	7(7.7)
TOTAL	1,552(100.0)	621(100.0)	480(100.0)	322(100.0)	91(100.0)

4. 医療器具の紹介、使用方法、購入方法について

「医療器具の紹介、使用方法、購入方法について」は、全ての診療科で「ケースワーカーと看護婦がそれぞれの立場で説明すべきである」と答えている比率が高く「全体」で65.5%を占めている。「ケースワーカーが中心になって説明すべきである」という回答の比率は診療科による差があり「混合」が、35.2%と最も高く「精神科」は、15.8%と最も低い(表47)。

分散分析の結果、 $P < 0.01$ 。

表47 医療器具の紹介、使用方法、購入方法について

	全 体	内 科	外 科	精 神 科	混 合
看護婦が中心になって患者が理解するまで説明すべきである	115(7.4)	43(6.9)	32(6.7)	35(10.9)	3(3.3)
ケースワーカーと看護婦がそれぞれの立場で説明すべきである	1,017(65.5)	418(67.3)	319(66.5)	206(64.0)	51(56.0)
ケースワーカーが中心になって説明すべきである	343(22.1)	138(22.2)	115(24.0)	51(15.8)	32(35.2)
そ の 他()	37(2.4)	13(2.1)	15(3.2)	11(3.4)	—(—)
無 回 答	40(2.6)	20(2.3)	5(1.0)	19(5.9)	5(5.5)
TOTAL	1,552(100.0)	621(100.0)	480(100.0)	322(100.0)	91(100.0)

5. 食事について

「食事について」は、全ての診療科で「栄養士と看護婦がそれぞれの立場で説明すべきである」と答えている比率が高く「全体」で70.5%を占めている。また「栄養士が中心になって説明すべきである」という回答の比率は診療科によって差がある。「混合」が最も高く29.7%、「精神科」が最も低く14.6%である(表48)。

表48 食事について

	全 体	内 科	外 科	精 神 科	混 合
看護婦が中心になって患者が理解するまで説明すべきである	61(3.9)	15(2.4)	21(4.4)	23(7.1)	1(1.1)
栄養士と看護婦がそれぞれの立場で説明すべきである	1,094(70.5)	430(69.2)	339(70.6)	239(74.2)	59(64.8)
栄養士が中心になって説明すべきである	353(22.7)	162(26.1)	111(23.1)	47(14.6)	27(29.7)
そ の 他()	29(1.8)	12(1.9)	6(1.3)	8(2.5)	1(1.1)
無 回 答	15(1.0)	2(0.3)	3(0.6)	5(1.6)	3(3.3)
TOTAL	1,552(100.0)	621(100.0)	480(100.0)	322(100.0)	91(100.0)

6. 福祉サービスの利用について

「福祉サービスの利用について」は「ケースワーカーと看護婦がそれぞれの立場で説明すべきである」と答えている比率が最も高く、「全体」で51.6%、次いで「ケースワーカーが中心になって説明すべきである」が43.0%である。ただし「混合」では「ケースワーカーが中心に」の回答の方が多し。また「精神科」は、「ケースワーカーが中心になって説明すべきである」という回答の比率が他の診療科と比べて低い(表49)。

表49 福祉サービスの利用について

	全 体	内 科	外 科	精 神 科	混 合
看護婦が中心になって患者が理解するまで説明すべきである	26(1.7)	13(2.1)	10(2.1)	3(0.9)	—(—)
ケースワーカーと看護婦がそれぞれの立場で説明すべきである	801(51.6)	325(52.3)	245(51.0)	177(55.0)	44(48.4)
ケースワーカーが中心になって説明すべきである	668(43.0)	259(41.7)	215(44.8)	125(38.8)	46(50.5)
そ の 他()	20(1.3)	10(1.6)	4(0.8)	6(1.8)	—(—)
無 回 答	37(2.4)	14(2.3)	6(1.3)	11(3.4)	1(1.1)
TOTAL	1,552(100.0)	621(100.0)	480(100.0)	322(100.0)	91(100.0)

VI まとめ

1. 入院患者から訴えられる不安について

入院中の患者から、「自分の症状が担当医師に正しく伝わっているかどうか不安である」という気持ちを打ち明けられたことが、「よくある」と「ときどきある」と答えている比率を合計すると「全体」で77.3%を占めている。

「自分の気持ちが担当医師に正しく伝わっているかどうか不安である」という気持ちを打ち明けられた